

I 土 地 象 氣

1 沿 革

射水市の位置は、東に富山市と西に高岡市と隣りあい、北には富山湾岸が南には射水丘陵がひろがる、富山県のほぼ中央部を占めています。

射水の自然は、四季折々にいどろ豊かです。山あり海あり川あり、清らかな野も森もあって、命に満ちています。

このような環境のもと、射水丘陵北端（小杉、大門）には、旧石器時代以降の遺跡が多数発掘されており、数千年の昔から人々の暮らしがみられます。

「射水」という地名の初見は、古代の 746 年に越中の国司として伏木に赴任した大伴家持の長歌（『万葉集』）にみえ、奈呉の海（新湊）や三島野（大島、大門一帯）の地名も詠まれています。

中世の射水平野は、古放生津潟が大きくひろがっていましたが、潟に流入する下条川、鍛冶川、神楽川等の堆積作用によって、しだいに射水平野が形成されました。

下村の加茂神社は、1066 年に京都の下鴨神社から勧請して成立したとされ、射水地方の賀茂神をまつる社の総社とされています。当神社の祭礼に奉納される稚児舞や流鏑馬は古くからの伝承行事です。

鎌倉時代になって放生津（新湊）に守護所が置かれ、以後、数百年間、放生津は越中の政治、経済、文化の中心となりました。1493 年には室町幕府の將軍足利義材が京都での政変を避けて、5 年間放生津に滞在したことがあります。

近世初期の旧北陸道は、城下の金沢から今石動 - 中田 - 水戸田 - 黒河ルートでしたが、1660 年代以後は、高岡 - 大門 - 大島 - 小杉 - 下村を通ることとなり、大門、小杉、下村は市場町、宿場町として栄えました。

近代になり明治 22 年に市制町村制が施行され、やがて郡制が敷かれて当地方は新湊（一時期伏木を含む。）、小杉、大門の各町と 30 村余で射水郡を構成しました。明治 32 年には北陸線が高岡・富山間に開通し小杉駅が開設され、大正 12 年には越中大門駅が設置されました。明治末期、伏木港を近代港湾化するため、高岡市能町で合流していた庄川と小矢部川を切り離して新庄川を開削する大土木工事が実施され、やがて大正期に入って伏木港の両岸が県内最大の先進的近代工業地帯になりました。

昭和 28 年に町村合併促進法が公布され、新湊市、小杉町、大門町では周辺の村々と大同合併をすすめました。昭和 38 年には国営射水平野農業水利事業が行われ、平野は肥沃な乾田農地に生まれ変わりました。昭和 47 年には新湊市と射水郡の水道事業を一本化し、射水上水道企業団が発足しました。さらに昭和 50 年には、し尿処理、火葬事業、ごみ処理事業を行う射水地区広域圏事務組合が設置されました。

高度成長下の昭和 39 年、「富山・高岡新産業都市」建設の指定を契機に、放生津潟を掘り込んで日本海側最大の富山新港の建設が開始され、その周辺は臨海工業地帯に、また太閤山には一大ニュータウン、県民公園太閤山ランドが造成され、さらに大学や研究機関等も進出しました。昭和 48 年には北陸自動車道の開通に伴い小杉インターチェンジが開設され、昭和 58 年には小杉町、大門町が「富山テクノポリス」区域に指定されて流通業務団地が形成されるなど、地域は大きく変貌しました。

平成 17 年 11 月 1 日、新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村の 5 市町村が合併し、人口 9 万 4 千余の射水市が誕生しました。

古来より射水は、地理、歴史的にも産業・経済や文化、生活の上でも似かよった基盤のもとで、人と物の交流は活発で強い結びつきをもっていたといえます。

塚原村	昭28. 10. 5編入			新湊市
作道村	昭28. 4. 1編入			
片口村				
堀岡村				
海老江村				
七美村				
本江村				
新湊町	新湊町	新湊町	新湊市	(高岡市)
牧野村	昭15. 12. 1編入	昭17. 10. 1編入	昭26. 1. 1分立 昭26. 1. 1分立	
(高岡市)	昭26. 3. 15市制 昭26. 4. 4編入			
大江村の一部、呉羽町 へ分離 (昭31. 3. 31)				小杉町
小杉町	昭17. 6. 8編入			射水市 平17. 11. 1新設
橋下条村	昭28. 11. 15編入			
金山村	昭28. 12. 1編入			
大江村	昭29. 3. 27編入			
黒河村	昭31. 3. 31編入			
老田村の一部	昭34. 4. 1編入			
池田村の一部				
大門町	大門町			大門町
櫛田村	昭29. 3. 1新設			
浅井村				大島町
水戸田村				
二口村				大島町
大島村	昭44. 4. 1町制			
下村				下村

2 市域の変遷

年 度	変 遷 事 由	旧新湊市			旧小杉町			旧大門町			旧大島町			旧下村		
		市町村名	面積	人口	市町村名	面積	人口	市町村名	面積	人口	市町村名	面積	人口	市町村名	面積	人口
明治 4. 2. 10	放生津町、荒屋村、四日曾根村、三ヶ新村、放生津新町、長徳寺村、六渡寺村、伏木村、古国府門前地、古国府村が合併	新湊町	…	…		km ²	人		km ²	人		km ²	人		km ²	人
19. 2. 23	新湊町から伏木町が分離	新湊町	…	…												
22. 4. 1	町村制施行	新湊町	…	…	小杉町	6. 36	5, 341	大門町	…	…	大島村	…	…	下村	…	…
昭和15. 12. 1	射水郡牧野村を編入	新湊町	9. 38	27, 437	小杉町											
17. 6. 8	射水郡橋下条村を編入				小杉町	9. 84	6, 462									
17. 10. 1	新湊町が高岡市へ編入	高岡市														
26. 1. 1	高岡市から新湊町が分離	新湊町	4. 52	…												
26. 3. 15	市制施行	新湊市	4. 52	30, 213												
28. 4. 1	射水郡作道村、片口村、堀岡村、海老江村、本江村、七美村を編入	新湊市	26. 71	46, 146												
28. 10. 5	射水郡塚原村を編入	新湊市	33. 01	48, 862												
28. 11. 15	射水郡金山村を編入				小杉町	27. 67	10, 536									
28. 12. 1	射水郡大江村を編入				小杉町	33. 48	13, 030									
29. 3. 1	射水郡二口村、浅井村、櫛田村、水戸田村と合併							大門町	…	12, 628						
29. 3. 27	射水郡黒河村を編入				小杉町	38. 38	15, 719									
34. 4. 1	婦負郡池多村の一部を編入				小杉町	41. 01	16, 630									
35. 10. 1	人口：国勢調査・面積：国土地理院訂正公表	新湊市	33. 01	47, 882	小杉町	41. 01	16, 168	大門町	21. 62	12, 194	大島村	7. 85	5, 577	下村	5. 15	2, 130
44. 4. 1	町村制施行										大島町					
59. 12. 20	公有水面埋立てにより生じた土地を確認	新湊市	33. 09													
63. .	国土地理院訂正公表(下記 70. 0万㎡含む)	新湊市	31. 28		小杉町	41. 22		大門町	21. 77		大島町	7. 96		下村	5. 8	
平成元. 11. 1	公有水面埋立てにより生じた土地を確認 (富山新港西埋立地 70. 0万㎡の一部)		31. 28													
2. 3. 13	公有水面埋立てにより生じた土地を確認 (富山新港西埋立地 70. 0万㎡の一部)		31. 28													
2. 6. 15	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 30													
2. 7. 24	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 52													
4. 3. 19	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 55													
5. 9. 22	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 88													
7. 9. 26	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 95													
8. 12. 13	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		31. 96													
9. 9. 24	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 03													
9. 12. 15	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 10													
10. 12. 18	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 33													
11. 12. 17	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 36													
13. 9. 20	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 42													
13. 12. 14	公有水面埋立てにより生じた土地を確認		32. 43													
17. 11. 1	新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村合併	射水市 面積109. 18km ² 人口94, 209人(国勢調査H17. 10. 1現在)														
		面 積								人 口						
21. 7. 15	公有水面埋立てにより生じた土地を確認	109. 18														
26. 10. 1	土地の計測方法の変更	109. 43														
27. 6. 26	公有水面埋立てにより生じた土地を確認	109. 43														
令和 2. 7. 1	土地の計測方法の変更	109. 44														

資料：総務課

3 位置及び面積

射水市は、環日本海交流拠点である富山県のほぼ中央に位置しており、北は日本海側最大の湾である富山湾に面し、東西を県下2大都市である富山市、高岡市に隣接している。また、半径7kmのまとまりのある土地面積は109.44平方キロメートル(内可住地面積97.55平方キロメートル、89%)で県土面積の約2.6%を占めている。

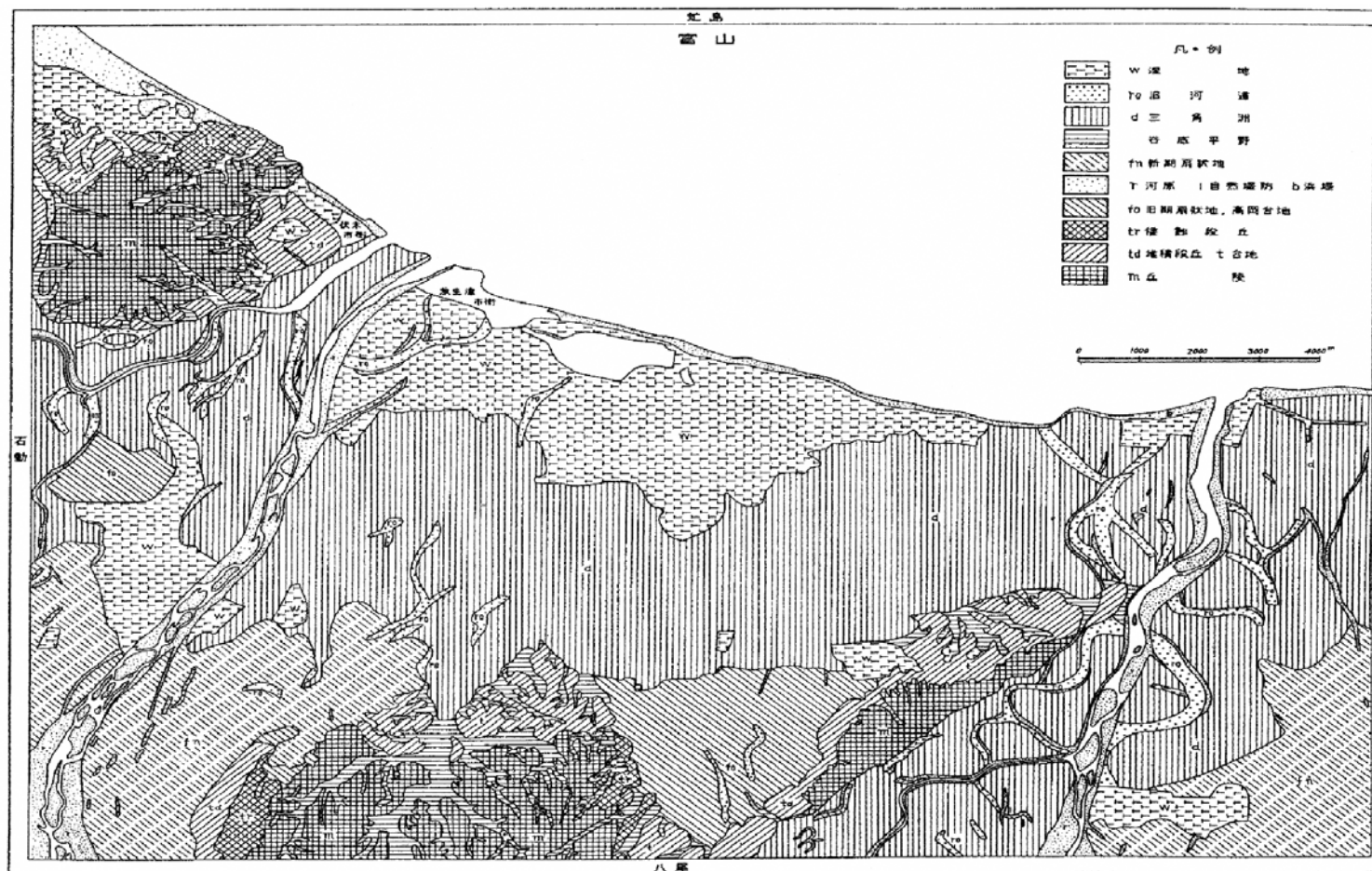
面積	広がり		位置		
	東 西	南 北	位置又は方位	所 在 地	経 緯 度
km ²	km	km			
109.44 (令和4年10月)	10.9	16.6	市庁舎	新開発410番地1	東経 137° 7' 54"
			東 端	本江地内	北緯 36° 73' 5"
			西 端	西広上地先	東経 137° 18'
			南 端	水上谷地内	東経 137° 1'
			北 端	庄西町1丁目地先	北緯 36° 65'
					北緯 36° 79'

4 地 勢

射水市は富山県のほぼ中央部に位置し、東方は富山市、西方は高岡市、南方は砺波市に隣接している。本市域は東西 10.9 km、南北 16.6 km で総面積 109.44 km² である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高 0～140.2m を測る。

地質構造は飛騨変形岩類とジュラ紀の手取層が基盤となり、その上に海成の砂岩、泥岩からなる第三紀層、礫及び砂泥層を主体とする洪泥互層を主体とする沖積層からなっている。

射 水 地 区 の 微 地 形 分 類 図



(資料「富山県射水地区の地盤」第3巻)

5 土地の地目別面積及び評価額

(単位：㎡、千円)

区 分		総 数	田	畑	宅 地	その他
平成29年度	面 積	72,829,045	35,576,529	3,086,815	23,337,947	10,827,754
	評価額	337,950,038	11,941,910	1,909,983	312,978,088	11,120,057
平成30年度	面 積	72,832,415	35,464,653	3,061,567	23,430,098	10,876,097
	評価額	338,282,062	11,397,660	1,837,096	313,880,779	11,166,527
令和元年度	面 積	72,779,940	35,297,834	3,092,111	23,507,125	10,882,870
	評価額	338,267,258	11,057,269	1,790,217	314,195,768	11,224,004
令和2年度	面 積	72,759,161	35,183,784	3,084,005	23,596,992	10,894,380
	評価額	337,727,026	9,933,568	1,763,485	314,767,686	11,262,287
令和3年度	面 積	72,681,881	35,013,287	3,077,761	23,680,929	10,909,904
	評価額	338,155,084	9,057,761	1,646,424	316,197,917	11,252,982

注) 総数は非課税地等を除いた数値

資料：課税課

6 気象概況

年 次	平均海面 気 圧 (hPa)	気 温 (℃)					降 水 量 (mm)		風 向・風 速 (m/s)				平均 湿度 (%)	日 照 時 間		階 級 別 日 数		現 象 日 数			有感 地震 回数
		平 均			極 値		総 量	日最大	平均 風速	最多 風向	最大 風速	最大 風向		時間数 (h)	率 (%)	降 水 ≥0.5mm	強 風 ≥10m/s	雪 (寒候年)	霧	雷	
		平均	最高	最低	最高	最低															
平成 30 年	1015.4	14.7	18.9	11.1	37.2	-5.3	2559.5	89.0	2.8	南西	15.2	南南西	79	1820.6	41	207	18	87	3	20	4
令和 元 年	1015.3	14.9	19.1	11.3	37.5	-2.3	1791.0	99.0	2.6	南西)	15.2	北北東	77	1801.3	41	178	10	75	2	28	3
令和 2 年	1015.1	15.1	19.3	11.6	38.0	-5.0	2065.0	70.0	2.7	南西)	12.1	南	79	1722.4	39	205	10	33	3	56]	8
令和 3 年	1015.4	14.7	18.8	11.2	34.9	-4.4	2659.0	106.0	2.7	南西	12.6	西南西	80	1809.4	41	187	9	54	4	68]	12
令和 4 年	1015.1	14.7	18.9	11.3	37.4	-2.6	2234.5	103.0	2.7	南西)	13.3	北北東	79	1796.7	41	187	8	73	3	69	11

年 次	平均海面 気 圧 (hPa)	気 温 (℃)					降 水 量 (mm)		風 向・風 速 (m/s)				平均 湿度 (%)	日 照 時 間		階 級 別 日 数		現 象 日 数			有感 地震 回数
		平 均			極 値		総 量	日最大	平均 風速	最多 風向	最大 風速	最大 風向		合 計 (h)	日照率 (%)	降 水 ≥0.5mm	強 風 ≥10m/s	雪 (寒候年)	霧	雷	
		平均	最高	最低	最高	最低															
R4. 1 月	1019.6	2.1	5.0	-0.3	9.8	-2.4	187.5	35.0	2.5	南西	8.5	北北東	85	66.8	22	24	-	27	1	6)	-
2 月	1020.0	2.3	5.8	-0.4	12.8	-2.6	200.5	22.0	2.6	南南西	10.0	北 東	85	77.5	26	20	1	27	1)	5)	-
3 月	1016.9	7.9	13.0	3.6	23.2	-1.3	92.0	32.5	2.9	南西	11.9	南南東	74	130.7	35	15	1	4	-	3)	3
4 月	1017.2	13.0	17.8	8.6	28.1	0.7	138.5	40.5	2.9	北北東	13.3	北北東	73	210.9	54	9	1	0)	0)	2)	2
5 月	1012.9	17.2	22.4	12.5	30.2	6.6	95.0	43.0	2.5	南西)	8.6	西南西	69	246.8	57	8	-	0)	0)	3)	-
6 月	1009.7	22.6	26.9	19.3	36.6	13.6	70.5	29.5	3.0	北北東	9.6	西	76	210.9	48	9	-	-	1	6	4
7 月	1007.2)	26.4)	30.5)	23.8)	36.1)	21.8)	209.0	48.0	2.3)	北北東)	7.5)	南西	84)	186.6)	42)	16	0)	0)	0)	14	-
8 月	1008.2	27.0	31.4	23.8	37.4	17.8	366.0	103.0	2.4	南西	8.1	南西	81	164.3	39	17	-	0)	0)	11)	-
9 月	1013.0	23.9	27.4	20.9	36.3	15.0	185.0	73.5	3.1	北北東)	12.5	南	82	144.5	39	16	3	-	-	3)	-
10 月	1019.9	16.8	20.9	12.6	31.3	6.9	106.5	20.0	2.8	南西	10.3	北	76	152.5	44	11	1	0)	0)	2)	-
11 月	1019.4	12.9	17.7	8.7	23.4	5.9	138.5	28.5	2.5	南西	9.8	南	79	148.4	49	15	-	0)	0)	4)	2
12 月	1017.7	4.8	8.0	2.2	16.8	-2.0	445.5	55.5	3.0	南西	11.7	南南西	88	56.8	19	27	1	16	-	10	-

注) 1 観測地点： 伏木特別地域気象観測所（高岡市伏木古国府）。ただし「雷」は 富山地方气象台（富山市石坂2415）、「有感地震回数」は射水市内の各震度計。 資料：富山地方气象台
2 最大風速： 10分間平均の最大
3 日照率： 可照時間に対する日照時間の相対比
4 寒候年： 前年8月1日から当年7月31日までの期間のことである。例えば、2008年寒候年は2007年8月1日から2008年7月31日までの期間を示す。
5 雷： 富山地方气象台の雷の観測日数。令和2年2月3日以降は観測自動化に伴い観測装置による。
6 有感地震回数： 一つの地震につき射水市内の6箇所に設置された震度計のいずれかで震度1以上を観測すれば1回とする。
7 「)」の付いた値： 統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。
8 「)」の付いた値： 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合がある。